Topic 33

米国デラウェア州の VCP

１）こんなところです
２）デラウェア州の VCP とブラウンフィールド プログラム

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、デラウェア州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

１）こんなところです

デラウェア州は、先週のペンシルバニア州の南東に位置する小さな州です。1787 年 12 月 7 日、一番初めに米国に加入しました。総人口は約 84 万人（2005 年）、人口密度は約 130 人弱/k ㎡。同州はロードアイランド州に次いで面積が 2 番目に小さい州です。州都はドーバー市。最大都市は州北部に位置するウィルミルトン市で、ニューヨークのマンハッタンまで電車で 2 時間ぐらいのところにあります。最大都市といっても、結構のんびりした田舎の雰囲気が漂っています。

「小さい」し「田舎風」なイメージとは裏腹に、デラウェア州には世界第 2 位の化学会社「デュポン」の米国法人（イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール・アンド・カンパニー）や、日本で沢山 CM がながれている「アリコジャパン」の本社「アメリカン ライフ インシュアランス カンパニー」をはじめ、およそ 380,000 件以上もの法人が存在しています。また、ニューヨーク証券取引場に上場している企業の約半分が同州に本社を設立しているということです。

どうしてこんなに沢山の企業体がここデラウェアから発生するのか？その答えは同州がもつ会社法にあります（米国では、会社法は州法です)。米国に企業体がほとんど存在していなかった 19 世紀初頭から約 1 世紀後の 1903 年、同州の会社法“Delaware General Corporation Law(DGCL)”が制定されました。同法は、法人設立や解散手続きにかかる手間や費用が少なく、税制優遇等が利用可能。米国企業のみならず多国籍企業の登記上本社設立にそれらを利用することもできるということで、当時から全米で最も法人に適していると評判だったようです。時代のニーズに合わせて現在まで何度も改訂してきたという歴史があります。

２）デラウェア州の VCP とブラウンフィールド プログラム

会社法において、米国のモデル的役割を果たすほどのデラウェア州ですが、VCP はどうでしょうか。Topic31 と 32 でご紹介したペンンシルベニアと比較すると、それ程プログラムに話題性があるわけではなさそうです。

歴史的背景をみると、1995 年に VCP、それから 9 年後の 2004 年にはブラウンフィールドプログラムが設置されており、どちらも州の自然資源環境管理局、大気および廃棄物管理課により運営されています。

・「VCP」

VCP には汚染地を自主浄化するための有効ツールのうち、環境責任の免除に関する仕組みが組み込まれています。行政側の技官やエンジニアが関与して、その土地の汚染責任を明らかにしようとするものです。登録資格者は、汚染地の所有者や潜在的汚染責任者（例えば、ブラウンフィールド開発者など）ですが、サイト自体にも登録資格が設定されています。例えば、サイトにおける癌リスク（cancer risk）や有害指標（hazard index）が規定値以上だと VCP に登録できません。

登録費用は$5,000。これは米国の全 VCP 参加費用のなかで最高額となっています。プログラム進展状況によっては追加費用が発生しますし、プログラム終了まで未利用分があれば返金される仕組みになっています。

・「ブラウンフィールド プログラム」

一方のブラウンフィールドプログラムは、汚染地の再開発プロジェクト対する投資家に対して財政支援することを目的にしています。登録費用なし。利用可能なインセンティブはブラウンフィールド再開発を実施している企業に対する税控除や、経済開発局からの助成金等です。

せっかく VCP で浄化や環境責任の問題解決に目処がついたのに、本来ゴールであるはずの再開発自体がうまくいかなければ VCP で払った努力が水の泡。これは「もったいない」ので、州の自然資源環境管理局は汚染浄化規制に関して柔軟な姿勢を示し始め、コミュニティーの再活性化と汚染地のリサイクル活動を前にすすめようとしています。

2005 年の報告によると、これまで VCP に登録したサイトは約 180 件。そのうち、昨年自主浄化を実施中だったのが 85 件。一方、ブラウンフィールドプログラムに登録されているサイトは 41 件で、この中には VCP から編入したサイトも幾つかあるようです。プログラム移転状況の詳細は、ちょっと見えてきていません。

来週は、首都ワシントン（正式名称：コロンビア特別区）の VCP をご紹介いたします。

Thanks God It’s Friday!
Thanks God It’s Brownfield!!

環境メルマ　佐藤（t.sato@ers-co.jp）

坂野のつけたし（banno@ers-co.jp）

Nickname　--「First State（最初の州）」「ダイヤモンドの州（小さいがとても価値がある）」「New Sweden（17 世紀半ばにスウェーデン人がここに入植した）」「企業の首都」「免税ショッピングのさと」「桃の州（ぶどうじゃないんですね）」

事例紹介　–Newark（ニューワーク）：精密機械の会社がある工場の跡地を購入しようと考え、デラウェア州の環境当局に調査結果の解釈を頼みました。調査では、地下水中に有害物質が検出されたようですが、州はこれを敷地の外側から来ているもの、いわゆるもらい汚染と判断し、最終的には、これ以上の作業はしなくてよいという文書（Certificate of Completion）を精密機械会社に出しました。おかげで、安心して 150 万ドル（約 1.8 億円）の投資を行なったということです。（http://www.dnrec.state.de.us/dnrec2000/Divisions/AWM/sirb/duhadaway.asp）